

国際高等研究所 研究プロジェクト

「設計哲学－俯瞰的価値理解に基づく人工財の創出と活用による持続可能社会を目指して」
2015年度第2回（通算第5回）研究会プログラム

日 時：2015年 10月2日（金）13:30～17:30
10月3日（土） 9:30～12:00

場 所：グランフロント大阪 大阪大学環境イノベーションデザインセンター（タワーC 9階）
(大阪市北区大深町4-1)

出席者：（14人）

研究代表者	梅田 靖	東京大学大学院工学系研究科教授
参加研究者	岩田 一明	大阪大学名誉教授・神戸大学名誉教授
	上須 道徳	大阪大学環境イノベーションデザインセンター特任准教授
	小野里 雅彦	北海道大学大学院情報科学研究科教授
	思 沁夫	大阪大学グローバルコラボレーションセンター特任准教授
	住村 欣範	大阪大学グローバルコラボレーションセンター准教授
	田中 直	特定非営利活動法人 APEX 代表理事
	中島 秀人	東京工業大学大学院社会理工学研究科
	服部 高宏	京都大学国際高等教育院教授
	村田 純一	東京大学名誉教授・立正大学大学院文学研究科教授

RA（リサーチアシスタント）

西川 優花 大阪大学大学院人間科学研究科博士前期課程2年

話題提供者（ゲストスピーカー）

牛山 泉	足利工業大学学長
堀尾 正鞠	東京農工大学名誉教授、前龍谷大学政策学部教授

オブザーバー 岸本 さやか 大阪大学大学院工学研究科特任研究員

趣旨

前回に引き続き、この研究会の中心的な論点である「途上国、新興国における技術の在り方」「途上国、新興国における技術への付き合い方」「途上国、新興国における設計の在り方」について議論を深める。そのために、今回は、再生可能エネルギー、バイオマスエネルギー、脱温暖化について途上国を中心に展開されている堀尾先生、および、風車を中心とした再生可能エネルギーを途上国で展開されている牛山先生に話題提供を頂いた上で、上記の論点を中心に計画中の書籍について討論を行う。

プログラム

10月2日（金）

13:30～15:20

話題提供「環境・地域性を含む「技術」の理解と、地域に根ざした co-design の考え方」

堀尾正鞆先生（東京農工大学名誉教授、前龍谷大学政策学部教授）

概要：

まず、「技術というもの」の包括的理解、および、設計とイノベーションの概念を論じた上で、地球温暖化・気候大変動時代において社会的規模の技術システムが直面する課題を明らかにし、地域に根ざした co-design の必要性と方法について、わが国の方々および途上国での課題を考える。

15:20～15:40 休憩

15:40～17:30

話題提供「途上国における無電化村落の再生可能エネルギーによる電化と技術哲学」

牛山泉先生（足利工業大学学長）

概要：

1970年代の、川喜多二郎先生の研究会での論議を基礎に、開発途上国における技術援助には「適正技術」という技術哲学が不可欠であることを学んだ。私自身も、本学の途上国支援グループも同じ哲学をもって、多くの開発途上国での技術支援活動を実践してきた。しかし、適正技術には一般化された定義はない。その基本は、簡単な設計、低コスト、現地材料を使用する、製作・設置・運用には現地の人材に参加してもらい、修理は現地の人材が行う、という人材育成も含めた共通の技術哲学に加え、準備段階から現地の技術に加え、文化的背景もできる限り学んだ上で現地に根付くような技術移転を行ってきた。今回は、適正技術に立脚した、インドネシア、ネパール、タイ、ケニア、パキスタン、フィリピン、ボリビアなどの実践例を紹介する。

10月3日（土）

9:30～12:00

討論：「途上国における技術の在り方」に関する枠組みと書籍の概要作り